

審 議 会 等 会 議 録

発 言 者 ・ 会 議 の て ん 末 ・ 概 要

1 開会

司会 (志村主幹) 只今から、令和5年度第1回久喜市立小・中学校学区等審議会を開催いたします。

なお、本日は、委員総数20人に対して、出席者は、18人でございます。従いまして、久喜市立小・中学校学区等審議会条例第7条第2項に規定されている会議の開催要件を満たしていることを報告させていただきます。

また、本日の傍聴者はおりませんので、ご報告させていただきます。

2 あいさつ

司会 (志村主幹) 次に、山本会長からごあいさつをいただきたいと存じます。それでは、よろしくお願いいたします。

山本会長 皆さん、こんにちは。
先程、車の車外気温が42度でした。車のラジオからは、ギリシャのほうで44度を超え、山火事が起こったという話をしておりました。猛暑というか、激暑というか、なんて言うふうに挨拶していったらいいのかなということを感じる日々でございます。本当に人間の力ではどうにもならない自然の力を感じる次第ですけれども、暑さに負けずではなく、暑さとどういうふうに向き合って生きていけばよいのかということはこの夏はしっかり自分自身のことを考え、皆さんのご健康も祈りながら過ごしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

本日もよろしくお願いいたします。

司会 (志村主幹) ありがとうございます。
ここで、学校長として任命しておりました青山委員、飯野委員について、人事異動等により委員の変更の必要が生じました。

久喜市小・中学校長会に変更となる委員の確認を行い、後任の委員を任命いたしましたので、ご紹介いたします。

鷲宮東中学校長の福沢委員でございます。

久喜北小学校長の麦倉委員でございます。

<委員自己紹介>

司会 (志村主幹) 続きまして、事務局職員についても人事異動がございましたので、引き続きの職員もおりますが、改めて紹介させていただきます。

教育部長の野原でございます。

教育部副部長の斧田でございます。

学務課長の関口でございます。

学務課小・中学校再編係長の齋藤でございます。

学務課小・中学校再編係担当主査の柴田でございます。
学務課小・中学校再編係主事の飯島でございます。
学務課小・中学校再編係主事の木村でございます。

<事務局職員自己紹介>

司会
(志村主幹) 申し遅れましたが、私は、本日の進行を務めさせていただきます学務課指導主事兼主幹の志村でございます。
よろしく願いいたします。

3 議事

司会
(志村主幹) 次に、次第3の議事でございます。
会議の進行につきましては、久喜市立小・中学校学区等審議会条例第7条第1項において、会長が議長となる旨の規定がございますので、山本会長に議長をお願いしたいと思います。
よろしく願いいたします。

議長
(山本会長) それでは、暫くの間、議長を務めさせていただきます。円滑に議事が進行いたしますよう、皆様方のご協力をお願いいたします。
はじめに、議事録署名人でございますが、名簿順で丸渚委員を指名しますので、よろしく願いいたします。
それでは、議事の(1)「市立小・中学校の統廃合等の検討について」事務局から説明をお願いします。

事務局
(齋藤係長) 学務課の齋藤でございます。
それでは、議事の(1)市立小・中学校の統廃合等の検討について、ご説明いたします。
資料1をご覧ください。
本件については、平成29年5月24日付け久教学第293号で小規模化が特に進んでいた市内3小学校、1中学校の4校について諮問を行い、継続的にご審議いただいた結果、江面第二小学校、上内小学校、菖蒲南中学校について、それぞれ統合することが望ましい旨の答申をいただいているところでございます。
こうしたなか、小林小学校に関しては、委員の皆さまから議題としてあがらないことについてご心配の声をいただいているものと認識しております。
あわせて、資料2をご覧ください。
令和5年5月1日現在の市内小学校の児童数を一覧にしたものになります。
1枚めくっていただき、10番から14番が菖蒲地区の小学校の状況になります。
一部の地域を除いて久喜市全体でも同様の状況ではありますが、菖蒲地区の小学校は5校とも少子化が進行しており、現在諮問している小林小学校といずれかの学校が2校で統合した場合、統合後の新校が小規模校にしかならないことに加えて、適正規模に満たない学校が残ってしまうことが想定されます。
また、最新の数字となる令和11年度の新入学児童に着目すると、菖蒲地区5校の小学校を合わせても55人という状況であり、仮に5校すべてを1校に統合

した場合でも学年2学級ということになります。

こうした状況において、菖蒲地区の学校における教育環境の将来像を考え、保護者や地域の皆さまへ教育委員会としての案をご説明するには、市当局と調整が必要な事項が多くございます。

そういった調整が完了しなければ、説明会等を開催することが出来ないため、本審議会においてもご審議いただく資料等をご提示出来る段階にないものと考えております。

そのため、市当局との調整を経て、保護者等へ説明会を実施する段階まで、しばらくのお時間が必要になるかと思っておりますので、次の任期の委員の方々にもこの状況をしっかりと伝えつつ、対応を検討してまいりたいと考えております。

事務局からの説明は以上です。

議長

(山本会長)

ただいま事務局から、市立小・中学校の統廃合についての説明がありました。

市立小・中学校の統廃合等の検討については、現在、本審議会に諮問されたもののうち、小林小学校の関係がまだ答申まで至っていないという状況にあります。

今の委員で審議することは今回が最後ということなので、次の委員に現在の状況をしっかりと引き継いでいく必要があるということです。

今までの審議状況と、この市立小学校の児童数等の資料について事務局から説明があった内容について、委員の皆さんからご意見をいただきたいと思っております。

いかがでしょうか。

中村委員

あまり言いたくはないのですが、また事務局としても聞きたくもない話でしょうけど、審議会と言っていないながら審議できるような内容ではないのではないかと私は思います。これまでやってきた中身があまりにも期間を置きすぎているので、いまさら何の話をしたらいいのかなと私は思っております。少子化が進行している、進行していると、数字的に今日示していただきましたけれども、具体的な動きが感じられない。はたしてこのまま私たちが議論しないで、事務局のほうでも困っているのでしょうか、あえて審議会で言わせていただきます。私たちが前に進めないと今の子どもたちはどうなるのかなと。そして、そのうち社会に見放され、置いてきぼりになってしまう。あえて言わせていただきます。少子化が進行していると言っていないながら具体的な動きが感じられない。先程、調整しているとか、いろいろと調整事項もありますと言っていましたけれども、言える範囲内でどんな内容を調整しているのかをお聞きしたいと思っております。お願いします。

議長

(山本会長)

ありがとうございます。

少子化の進行をこのグラフが示しているが、審議会等に諮る対策についての具体的な動きが感じられない。あえて言わせていただきたいということなのですが、事務局としても大変いろいろなものを抱えていらっしゃるのではないかということをお聞きされているのですけれども、調整事項の範囲で言えるものがあればお知らせいただきたいということです。よろしく願いいたします。

事務局

(齋藤係長)

現在、調整が必要だと事務局のほうで考えている事項としては、菖蒲地区においてはどちらかの学校に行くという調整がなかなか難しい状況ですので、5校全

部を1校にするということを検討しなければいけないかなと考えております。ただ、適正規模・適正配置に関する基本方針のほうにも、原則としては既存の学校施設を利用して統合を実施するということを定めているところもありますので、そういった検討が可能なのか、それともどこか別の場所に行くことになる場所を考えなければならないのか、また、菖蒲地区は面積が広いということもありますので、子どもたちの交通手段というところでスクールバスの検討が必要になってくるかと思っておりますので、その検討等々について今後財政的な側面も含めて市当局との調整が必要になるものと考えております。

議長
(山本会長) 中村委員、今の説明について何か質問はありますか。

中村委員 どういうふうに進めましようかね。まあ、今のところは置いておきましよう。

議長
(山本会長) 小林小学校関係については、審議、諮問をいただきましたけれども、どの学校とどの学校を統合するとさらに教育環境がよくなるだろうか、将来を見ると2校とか3校という問題ではないのではないかと。そうすると、案としては例えば5校を1校へという案も考えられる。ただ、その場合に既存の施設を利用するという方針のなかでやっていくとしたとき、その場合はどうするのかと。それから、もしそうなった場合の交通手段、それも菖蒲地区は面積が広いのでどういうふうにしなければならないのかと。いろいろなことを案としては考えなければいけないということですが、事務局としてのお考え、調整事項はそういうことでした。

他にいかがでしょうか。

堀井委員、いかがでしょうか。

堀井委員 なかなか難しいところで、どういうふうにしたほうがいいのかと。

この学区等審議会において、審議会の委員がどういう考えで、良い案があるのであれば聞いてみたいと思うのですが。

議長
(山本会長) 他の委員の皆さん、何か良い案とか、こういうのが考えられるのではないかとこのがありましたらお願いします。

令和11年度の小林小学校の1年生は、転入・転出とか関係なければ今のところ3人である。栢間小学校も3人である。三箇小学校は10人という見込みである。このことを考えると、このままいいものなのかということはあると思う。

河野委員 江面小学校は、この資料1の一番上に書いてあるように、統合をして今年で3年目になるのですが、旧江面第二小学校の人数が少ないということで一緒になりました。やはり、一緒になって人数が増えた。3人とかだと友達も少ないと思いますし、男女が偏ってしまうだとか、友達と喧嘩をしてしまったら気まずいままかもしれない。親としては、いろいろな友達と遊んでもらいたいという思いがありますので、できればクラス替えもしたいなというのがあるのですが、それは贅沢かなと思いつつながら。小林小学校の令和11年度の全体が56人ということ考

えると、地域的にどちらとどちらが一緒になるとかはわかりませんが、人数は運動会の関係とかでも多くいたほうがいいのかと思う。今の保護者の方に聞いても、何年後かの話だからあまり自分には関係ないと思ってしまうので、出来れば今生まれたお子さんの親御さんに聞いてもいいのかなと思います。

議長
(山本会長)

なかなか難しいのは、現在在籍している、特に高学年のお子さんたちの保護者は将来のことであるから自分の子どもはそこに直接は対峙しないのでいいかなと思ってしまうけれども、その時に教育環境としてよいのか、やはり保護者からするといろいろな友達と遊んでほしいとか、クラス替えをして人間関係を学んでほしいとか、いろいろなことをしてしまうので、就学前の人たちの関心をいかに高めるかというのが大事なのではないかというご意見でした。

他にいかがでしょうか。

堀井委員

学校を統廃合するというのは、そこに通っている子どもたちのこともあるし、それからこれからの子どものこともあるし、学校というのは地域の核となるようなものであるので、地域の要望というのもあると思います。統廃合するときその中で一番難しい点というのは、地域の人、そこを卒業していった人とか、そういった方のことが統廃合するとき意見が結構強くあるのですけれども、今まで統合してきた小中学校のように、子どものことを考えると何年も待てるような状況ではないと思う。ただいま河野委員からもお話があったように、一緒になってよかったという意見がかなり多くあるわけなので、いろいろな意見があるとは思いますが、先程の5校が1校になるとか、2校、3校が1校になるとか、そのような具体的な例を早急に委員会でも提案してもらおうと議論も深まって早く安心して子どもたちが学習できるのではないかと思いますので、よろしくお願ひしたいなと思います。

議長
(山本会長)

中学校もそうですけど、特に小学校区に対しては地域の要望が、卒業生、地域の方たちの思いが脈々と息づいている。だから、残したいという気持ちももちろんわかりますけれども、今の現実を見ると子ども教育についてどう大人が責任を取っていくかということを見ると、なんらかの対策を打っていかないと責任取れないのではないかとということで、5校を1校にという案もあるけれども、他の具体的な例も早急に示して慎重を図るのも、いろいろなご意見を聞くのもいいのではないかとことです。

他にございますか。

儀仁委員

上内小学校で統合させていただいた者としては、子どもが統合して楽しそうに学校に行けていること、中学校に入っていわゆる中一ギャップというものが特に何もなく現時点でも楽しく学校に行けているということは、やはり統合したからこそのことだと思っているので、統合自体は全然悪いことだと思っていないし、これを見る限りここまで待ってられる状況ではないと思う。上内小学校もこの状況だったので、何年後かには複式学級だのなんだのが出てくるはずなので、そうなる前に、今ここで話をするのも大事なこともかもしれないですけども、この5つの小学校のPTAの方だとか、上内小学校の場合は来ていただいたと思うので、学校運営委員やPTAに来ていただいて、まずはPTAの意見を聞いてい

ただいて、そこから保護者の方に説明させていただいて。もうそういうことを始めてもいい時期なのではないかと思うのですけれども。まず、確かに統合する頃には卒業している子たちももちろんいるとは思いますが、今動けるPTAの方たちがいらっしゃるの、やはり学校のことを一番わかっている。もちろん先生方もそうですが、PTAの方々もそうなので、どうすればいいのかということをごここで話すよりもPTAの方の案とか、保護者の方のお話を聞いて、やっとならばこうしたらいいのではないかと、という道筋ができるのではないかと、思う。

議長

(山本会長)

保護者からの具体的なご意見をいただきました。

やはり、ここでの審議というのはどちらかというと大枠になりがちなのですが、細かい手立てだとか、そういったものを振り返って考えてみると、まずは5校のPTAの皆さんも含めていろいろ説明して着手していくのが、その中でいろいろな考えや案が出てくる可能性もあるということで、いろいろ練りながらいい案ができるのではないかと、いうことでした。

事務局、いかがでしょうか。

事務局

(齋藤係長)

今までの統合事例でお話ししますと、江面第二小学校、上内小学校、菖蒲南中学校に行った際には、いずれもどこどこを統合して、いつの統合を検討していますというお話を説明させてもらっていた。いまのところ、小林小学校に関して言うとそこが固めきれていないということがあります。そういうところがあるので、今のところ保護者のところへは行ってないのですけれども、こういう状況ですので、皆様のご意見をお聞かせくださいというような形で聞くのは一つのアイデアなのかなと思いますので、参考にさせていただきます。ちなみに、上内小学校が休校を決断した際の人数もやはり1年生と2年生が3人、4人という人数になってきたという現実もあり、当時のPTA会長であった儀仁さんを始めとするPTAの方々から要望書という形でいただきましたので、それをもって学区等審議会で休校の答申をいただいているところがございますので、今後、学年3人といったような人数ができてきているというのはある程度考えなければいけない段階に入ってきているのかなと思います。

議長

(山本会長)

今の説明にもありましたけれども、いままでは説明会とかに行くにしても、ある程度骨子が固まってどこどこの学校を統合すると、それについての説明を行うということはあったけれども、今はどこどこかそこがまだはっきり固まっていないのでなかなか動けないけれども、今のようにはまずは5校の保護者の意見を聞くとか、そういうところからでもいいのではないかと、いうことで、参考にさせていただくということでした。

他にいかがでしょうか。

柴崎委員、いかがでしょうか。

柴崎委員

現在、この審議会で小林小学校の統廃合の問題が出たときに、人数的な意味で統廃合について審議を進めてきましたけれども、どこを統合するかと言ったら栢間小学校、または菖蒲小学校、三箇小学校、菖蒲東小学校。もし、統合した場合のその後の青写真が私にも見えなかった。やはり、現実の人数を比べてみましても小林小学校は80人、栢間小学校は60人ということで、小林小学校の人から

見れば、なぜ小林小学校を廃校にして統廃合ということができたのかというのが非常に不思議であった。その辺が非常に私どもも思っておりました。今後、5年後、6年後になりますと、当然に減少しますから、統廃合が避けて通れないということは私もわかっておりますし、地元の人たちもある程度理解していると思います。ただ、先程、見通しがありましたけれども、5校を一緒にして今ある学校に統合するのか、または新しい場所を選定して新しい小学校、または義務教育学校を作るのか。やはり、これからだと思いますが見えてこない。その段階でこのままいけば、菖蒲東小学校はそのままの状態でも10年後でも存続できると思いますけれども、三箇小学校と菖蒲小学校、小林小学校、栢間小学校はこのままの状態で行けば必ず統廃合が出てくると確信しております。そうしますと、その辺の青写真がある程度見えれば多分小林小学校、菖蒲小学校、三箇小学校の保護者の方は、人数が減るのだから将来的には統廃合をして一つの学校、または菖蒲東小学校が統合して5つの菖蒲として一つの学校を作るということに対してそれほど大きな問題点はないのかなと私は思います。ただ、それをいつ発表するか、またはどこに作るのか、または5校で一番の中心となる学校はどこか、そういうところが今の段階では私も見えませんので何とも言えませんが、基本的には限界がきているということはこの数字を見てわかっております。ぜひ、その辺についてわかっていることがあれば教えていただきたい。

議長

(山本会長)

柴崎委員は地域の方ですので、どういうお考えかということでお聞きしました。今まで小林小学校の方々の方が反対というわけではないけれども、小林小学校を廃校してこっちだとか、それぞれ栢間小学校も小林小学校、三箇小学校も非常に菖蒲の学校の伝統がありますし、100年以上あってそれぞれ地域の思いがある。そうすると、先程の卒業生の思いとか、地域の思いというのがあってなかなか難しいことがあると思います。ただいま柴崎委員のご意見ではいずれ統合は避けられないだろうと。その場合にどこどこを統合して学校を作る案とか、5校を統合してこういうのを作る案とか、それに対するある程度のプロセスをどういうふうに踏んでいくとか、時期とか、だいたいいつ頃になるのかとか、そういうものを少しずつ示していただければ、さらに地域の皆さんのいろいろなご意見とかそういったものが伺えるのではないかとということです。

事務局、いかがでしょうか。

事務局

(齋藤係長)

先程頂いた意見と少し似てくるところがあるのですが、柴崎委員がおっしゃっていただいたとおり、既存の学校を使うのか、新しい場所に学校を作るのかというところの違いによっても開校できる年度が変わってきてしまう。ですので、今までの既存の学校を使って統合もそうですし、スピード感をもっていくということもあって既存の学校を改修してそこに統合するという形でやってきているので、そういった手法が今回可能なのか、例えば5校でやると言ったときに既存の基幹となるような学校があって、他の4校が入ってくるという形になることが可能なのかということ。交通手段、通学の面、施設の面も含めていろいろと考えていかなければならないということも出てきてしまうので、それは基本方針上ではそういうふうになっているのでその検討はもちろんなのですが、そうではなくて新しい土地に新しい学校をとということになってくると財政的な面だとか、

そういったことを考えなければいけないのが出てきてしまうので、お時間を頂戴する形になってしまいますというような形の説明になった。ですので、時期に関しても、その辺の手法によってどうしても変わってしまうので、現時点で何年ですというのはなかなか言えないのですが、今までの準備委員会等言えば、小学校同士での統合で2年、義務教育学校の統合で3年とか準備に時間を使っているの、その前に統合の意思決定をして皆さんに審議いただくような時間というのがほしい2年かかっているの、そう考えるとほしい統合までというのは議論を始めてから4年とか5年がかかっているのが実態ですので、そういったことも逆算してある程度こういった数字、状況というのを見ていかなければいけなかなと考えております。

柴崎委員

菖蒲、小林、栢間、三箇のうち3つの小学校はそれぞれ今年150周年を迎え、1つの小学校は150年以上ある。菖蒲東小学校は分かれて出来た学校ですから、新しいですけども。それだけ地域の小学校、中学校もありましたし、元々地域でずっと150年近く育った地域ですから、簡単に、例えば上内小学校、江面第二小学校みたいに元々あった学校から分かれたものとはまたちょっと条件がかなり違いますので、そういった意味では、距離もかなりありますし、ほとんどスクールバスを使わないと、例えば場所によっては全児童が移動できないのではないかとということもあります。ですから、感覚的なところというのはやはり地元の人でないとなかなか分かんないかなと思うのですけども、そういう点も考慮して素晴らしい案を教育委員会のほうで提示していただければ、菖蒲地区として立派な義務教育学校なりできるのかなと考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

議長

他にありますでしょうか。

(山本会長)

佐藤委員、いかがでしょうか。

佐藤委員

各地域での思いとか、保護者からのというのもありますが、実際に学校現場で教育に当たっておられる先生方、そういう教育現場から聞いたときの子どもたちの集団作りとか、子どもたちの何を育てるのだろうとか、そういったところの教育の根本に立ち返ってみると、やはり学校教育のなかで社会性を育てるとか、あとはいろいろな課題が生じてきて子どもたちの人間関係が難しくなったときにクラス編制をして新たに人間関係作りをしていくとか、そういったことはすごく学校現場では重視したいところだと思います。そういうことを考えたときにこの審議会ないし事務局でこのクラス編制を考えていくときに何を一番に重視して検討していくか、そこをやはり一度しっかり話し合わない。対処療法的なことではなくて、10年先、20年先、あるいは30年先の状況を踏まえて、見通して、久喜市として子どもたちの教育環境はこうありたい、こうしていきたいというものをごここで話し合っていくことが大事なのではないかなという気がします。私個人の考えを申し上げますと、やはり社会性を育てるとか、子どもたちの教育活動の中でいろいろな課題が生じたときにいろんなふうに対応していける、そういう教育環境がすごく大事だと思う。だとすると、今の菖蒲の例がありましたけれども、ある程度思い切った改革をしていかないとまた同じ事の繰り返しになっていくの

ではないかと。もう少子化の流れは止められない状況ですから、だとしたら今コツコツと先手を打つためにどうしたらよいのだろうかということをごこの場で話し合えたらよいのではないかと気がしています。

議長
(山本会長)

学校関係者の中でいろいろな思いとか地域の思いがあるかもしれないけど、何を根本に据えるかということは揺らぎなく、ぶれないで考えていかなければいけないと。やはり、対処療法ではなくて、何十年後を考えたときにということですけども、内田委員、何を重点的に考えたらいいと思いますか。

内田委員

それとは少し外れてしまうかもしれないのですが、このところ久喜市内の小中学校の校舎の老朽化についてテレビなどで放映されていて、それもすごく大きな課題ではないかなと思っていて、やはり学校数が多ければそれだけ校舎の修繕とか建替えとかそういうことがこれからどんどん考えていかなければいけない状況にあって、しかもその中に学んでいる子どもの数がどんどん減っているとすれば今ある大きな校舎が本当に必要なのだろうかということとも関連してくるのではないかと考えています。子どもたちの学び舎ですから、安全で、快適で学習に集中できる環境の中で子どもたちがのびのびと自分の力を伸ばしてほしいなと考えたときに、そういうことも考えて、単なる少子化だけでなくそういう環境面も考えた統廃合も必要なのではないかと思います。鷲宮地区で義務教育学校についてここでも検討したと思うのですがけれども、埼玉県内でも日高市では2028年を目安に3校の義務教育学校に編成するということでした。そんなふうに、久喜市としてこの少子化でここが少なくなってきたからここを考えるというのも一つの手かもしれないですけども、市としてどういう考え方でいくのか。単なる子どもの数だけで、もちろん子どもの数も大事なのですが、子どもの数だけでやっていくのではなく、それも一つの方法ですけども、義務教育学校として日高市は3校に編成するとのことで思い切ったことをやるなというふうに思ったのですけれども、多分どこの市町でもこういう事態なのだろうなというのを思いました。ただ、そういう重い決断というのが一体どこでどのようにされていくのだろうかというも私には計り知れないところがあって、ここの審議会とかでは無理な話なのだろうなと思ったのですけれども、市としてその辺も含めてここの小林小学校を含めたこの菖蒲地区の小学校の問題もさることながら他でもやはり単学級になるのが目に見えているところがたくさんありますから、しかも近隣に中学校もあってということもありますので、そう考えたときには市としてどんなふうにこれから小中学校を考えていくのかを根本的に方針を打ち出していくというのが一つ望ましい方法でもあるのかなと思っております。先程も事務局の方がおっしゃっていましたが、決まったところですぐ来年からなりますよというようにはならないわけで、決まってから5年、6年とかかってくるわけなので、早め早めにやらないとすぐ来てしまうなと感じています。令和11年度に3人になるというふうになっていますけれども、迷っている間にすぐ来てしまう。気が付いたらもう明日から令和11年度となってしまうのではないかなと危惧しています。なので、思い切った久喜市としての方針というものがあったらいいのかなと思うし、子どもの数が少なくなっているのは全員がわかっていることだと思うので、久喜市はそういう方針でいくのかといたら、単なるどこかの学校に統合されてしまうだと

か、うちの学校は廃校になってしまうという考えではなくて、前に進むために新しい学校編成になるのだという捉えだとすごく前向きに捉えられるのではないかと思います。まとまらない考えで申し訳ないのですけれども。

議長
(山本会長)

人数に対応する対象校の統廃合をいままでやってきたのだけれども、将来的にみるとそこにどんな教育環境で、人数だけでなく、老朽化している、4、50年建っているという中で、この機会を使って、トイレとかもそうですけど最新の設備にするなど、そういう教育環境で子どもを育てられたら単なるどこどこが統合しましたというのものもあるかもしれないですけれども、そういうふうな将来的な思い切った考えも必要なのではないかとということです。それを逆手にとって今のある課題を解決するだけではなくて、その課題の先にもっと進もうというような考えが必要なのではないかとということです。いろいろとお金の問題とか調整とか事務局はすごく大変だと思いますけれども、そういうご意見も聞いていただければと思います。

他にいかがでしょうか。

中村委員

私は教育委員会の中身までは詳しくはわかりませんが、随分と長い期間、これまで10年ぐらいかかって江面小学校の統廃合からようやくここまで来ている。ですから、次のステップにかかるのはあと10年かかるのではないかと。10年でここまでして今、ちょっとその場で足踏みをしている状態なのですが、なんでそうなっているのかというと、当たっているかどうかはわかりませんが、予算の問題なのではないかなと。お金がないから前に歩みを進められないのではないかとというふうに思う。よく話題になります、ごみ処理施設です。あれに相当な、多大なお金をかけて、そして片や小中学校の修理・修繕が追い付かないと。ですから、当然、次の統合の話までは事務局の方でもなかなか進められないのではないかと私は思っています。当たっているかどうかわかりませんが、ただ、そこまで我慢に我慢を重ねて随分と労力を使って事務局の方では頑張ってきたのです。ですから、ここで任期を終えるにしても次の方には前を向いて新たなステップをしてほしいということを申し上げたいと思います。

もう一方で、公共施設の検討委員会でそれも並行してやっているようですが、そちらの方でも学校の統廃合を優先的に直ちに進めてほしいというふうに答申されているのではないかと思っています。ですから、この辺でもうひと踏ん張りして具体的にここでこういうふうな意見が多数寄せられていると思う。ですから、単Pなり、PTA連合なり、校長会なり、自治会なり、そっこのほうに声をかけてぜひ前に進めてほしいなと思います。それが私たちの役割なのではないかなと思います。

議長
(山本会長)

他にご意見ございませんか。

松本委員、いかがでしょうか。

松本委員

菖蒲地区についてはなかなか難しい課題がたくさんあって、一言では言い尽くせないと思うのですが、ただ、いつも私が申し上げておりますけれども、この審議会で大切にしなければいけないのは、子どもが第一だということです。子ど

もたちにとって何が大切なのかということに対して考えたときに、今いる子どもたちにとって何をやってあげることが私たちの責務なのかということを見ると、菖蒲地区において非常に少人数で本当に教育環境も、言葉は悪いですけども、劣悪な教育環境しかないと言っても過言ではないと思います。それを考えて、今いろいろ考えたのですけれども、地域や保護者、住民の方々の意見はとても大切ですし、気持ちも大切にしていかなければならないということは十分にわかります。まして、伝統校である学校がなくなってしまうということであれば、地域の方々も非常にそんなことは許さないという意見が出てくるかとは思いますが。ただ、いつもいろいろ意見を聞いて、意見を聞いてと言いますけれども、逆にわかってもらえるほうが大事なのではないかと。今この子どもたちにとってこうなのですと、これをやることはとても大事なのですぜひご理解くださいと。地域の方々はいろいろな思いがあるでしょうけれども、保護者の方々はいろいろな思いがあるでしょうけれども、子どもたちにとって本当に大切なことは今これをやることなのですと。統合であれば、統合をすることなのですと。ぜひご理解いただきたいという、ご理解いただきたいというのがいつも抜けているような気がします。意見を聞いてこの次に保護者説明会をやりました、こういう意見がありました、というろいろと出てきます。確かに、意見はたくさん聞きましたけれども、その中でこうしたいのでぜひご理解くださいというところまで気持ちとして、推進するほうとしては進めていただけたらありがたいかなと思います。

それと、5校を1つにするにしてもどう見ても無理だと思います。単純に考えて、菖蒲小学校、菖蒲東小学校は結構近い、そこに小林小学校を入れて、セットの三箇小学校、栢間小学校。二つの枠組みでやれば、とりあえず少しは教育環境が良くなるのかなと。当然、スクールバスの関係もありますし、学校から離れていることもあるので一概には言えませんけれども、例えばそのような部分、そういうことが出てこない、先程から話していますけれども、話し合いの何をもって話したらよいかわからない。ですから、基本は子どもたちなのだとすることを大切にしながら子どもたちのために私たちは何をどうしていくのか、事務局としては子どもたちのことを考えてこういう方向でいきたいのですという案を示していただくとか。そういうことがないと、この先どうしようというふうになってしまうなと思いますので、基本的には子どもたちをどうにかしてあげたいという気持ちをもって話を進めていっていただけたらと思います。

議長

他にいかがでしょうか。

(山本会長)

折原委員

例の文部省の学校統廃合の基本ルールとか、行政が決めたルールに基づいていくと、小林小学校と栢間小学校は前々からもう統合と言いますか、もう方針はあったわけですね。それはいまだに生きているのですか、いないのですか。というのは、今日のお話を聞いていると、菖蒲地区はもう小学校を全部まとめて1つというようなニュアンスにやや聞こえるのですが、どちらが今検討の課題として考えているのですか。方向が見えないから言っています。

事務局

折原委員がおっしゃっているような、平成29年に諮問した当初の状況であれ

(齋藤係長)

ば、小林小学校、栢間小学校の例えば2校で統合という検討もあったかと思いません。ただ、今のこの状況、数字も見えている令和11年、いわば今の0歳の子どもたちが小学校1年生になる年には3人と3人という状況ですので、統合した学校が6人の学年、次も6人の学年になってしまうと複式学級になってしまいますし、統合して教育環境が改善されたかというそういう状況にならないと思いませんので、最初の説明の中でお伝えしましたが、今の諮問している小林小学校とどこかが統合したときに小規模校にしかならない統合というのは子どもの教育環境を整えたとは言えないと考えております。

議長

(山本会長)

5校を1つにとか、2校、3校とか、まだ具体的に今のところはまだ示せないということです。

折原委員、よろしいでしょうか。

折原委員

中学校に関しては菖蒲南中学校をなくして今年で丸2年目になります。菖蒲中学校はそうすると三箇、小林、栢間、菖蒲東、菖蒲の5つの小学校の生徒が一か所に集まるということになりますよね。そういう方向なのですか。菖蒲地区の適正な小学校は1校ですか、2校ですかと聞かれた場合、どのように答えますか。

事務局

(齋藤係長)

適正規模・適正配置に関する基本方針等にも記載させていただいておりますが、小学校や中学校の適正な学級数というところは定めておまして、小学校の場合は12学級から18学級という形なので、学年で言うと2学級から3学級という形になります。学年35人で1学級というところなので、36人以上の規模を目指すとなると、やはりこの菖蒲地区の小学校の現在の人数を見ると5校が適正規模を満たすためには必要なのかなと考えております。

折原委員

その辺の具体的な方針を委員会で方針を考えてくださいと言うのか、行政の方でこういうふうにしたいのですが、A案、B案、C案と3つぐらい提案するのか、方針が全然、この資料で経過はわかりましたけれども、見えてこない。小林小学校と栢間小学校だけで学校説明会を何回か開きましたよね。上内小学校でも開きました。上内小学校を休校するにあたっては、私はその時に委員でしたので、小林小学校と栢間小学校の統廃合で説明会が菖蒲南中学校でもありましたし、栢間小学校で地域の説明会も何回か行きました。わかっているつもりなのですが、全然進捗しないというか、難しいと思いながら行政の方向が全然、具体的なものが見えてこない。だから聞いているのです。

事務局

(齋藤係長)

今までの状況でお伝えするのであれば、平成29年12月10日に菖蒲南中学校の関係と小林小学校の関係で菖蒲南中学校の体育館を使って説明会を実施しました。その時は確かに小林小学校の関係と菖蒲南中学校の関係ということで2つの件についてお話しさせていただいたのですが、その説明会の中でやはり小学校というのが地域の核となる、地域の拠点となるような場所なので統合すべきではないというようなご意見が非常に多かった。それに比べると、菖蒲南中学校の方に関して言うと、生徒数も少ないし、部活もできない、統合を検討すべきなのではないかというご意見もあった。ということの中で、当時の担当の考えの中で菖蒲南中学校の統合にある程度絞ってそのまま説明会等のほうは菖蒲で実施している、あまり小林小学校の統廃合の説明会というのはその後実施ができてい

ないということが実情としてあります。ですので、当然、菖蒲南中学校の説明会の中で小林小学校はどうするのかといった個別のご意見・ご質問等をいただくことはありましたが、それについて具体的に説明会を開催しているということは現実にはない。菖蒲地区の保護者の方や地域の方も混同してしまっても良くないというのもあって、説明会に行くときは菖蒲南中学校の観点に絞って説明会等は実施していた。ですので、令和4年4月に菖蒲中学校を開校しているのですが、それより前の段階について言うのであれば、平成29年12月10日以降は小林小学校に絞った説明会は実施していないのが実情でございます。

議長
(山本会長)

平成29年の段階でその状況がずっと続いていると、説明会も実施していないと。その間に刻々と状況は変わっているということで、そういう案が、今は示すのが難しいですけど、そのうち示したいということですね。

他にいかがでしょうか

中村委員

学校の校舎、施設設備の問題もあるのでしょうけれども、この統合の問題について教育委員会が、この事務局が核になってエンジンになって前に進んでいかなければ形にすることができない。ぜひ頑張ってほしいなということを最後に発言させていただきました。

松本委員

できればということで1つお願いなのですがけれども、例えば、保護者の願いとか地域の願いとか、予算の問題とか、そういうのは一切抜きにして5校ある小学校の中でどこどこを統合した場合に一番の課題になるのが通学の問題だと思う。一番遠いところの子どもたちがスクールバスを使って行ったときに何分ぐらいかかるのか。例えば、スクールバスで1時間通うところに学校に行くのか。毎日1時間は大変だと思う。例えば、菖蒲小学校と菖蒲東小学校、小林小学校の3つを統合しますとしたときに、例えば小林小学校に集めましようとしたときにスクールバスで行ったときに機械的に一番遠い子はどのくらいかかりますかというようなシミュレーションがほしいと思います。例えば、栢間小学校と三箇小学校にしたときに栢間小学校に集めたときに、栢間小学校まで何分ぐらいかかるのかと。具体的な問題として、一切しがらみ抜きにして機械的にこうやるためにはこういうのだと無理ですねという案も出てくるでしょうし、それでは可能にするにはどうしたら良いか。何か話のきっかけになるものが欲しいので、できれば一切思いとか予算とかを抜きにして機械的にこういうシミュレーションも考えられる、ただこういうことは難しいかな。そういうのは少し案としていただけるとありがたいかなと思います。

柴崎委員

これからの学校教育、小学校は中学校の先生が英語とか技術とか音楽とか、すぐに来ていただける義務教育学校というのがいろいろな地区で始まっていると思いますけれども、前は菖蒲地区でも2つありましたからコミュニティスクールも菖蒲南中学校と菖蒲中学校で2つありましたから、今は1つになりまして全部の小学校がコミュニティスクール菖蒲学園という形でひとつのまとまりとしてやっております。そういうことを考えますと、あくまでも個人的な希望ですがけれども、中学校の近くに小学校を作るのであれば一緒にして、あるいは久喜市の教育だということ義務教育学校としての良さを活かせば良い教育ができるのではない

かなと思います。やはり学校が離れていたところから中学校の先生が来るとかそういうのは非常に大変な面があると私は感じておりますので、もし新しいところを作るのであれば菖蒲中学校の周りは田んぼですし、空いている場所も結構あるので、ぜひそういうところを検討していただければ非常にありがたいということで伝えさせていただきました。

金子委員

この審議会では、適正規模・適正配置に照らし合わせていろいろと審議をこれまでもされてきたと思います。今回、数字を見るだけではどの委員も統合が望ましいのではないかというご意見が多いのではないかと思うのですが、具体的な統合をしたほうが望ましいというのですけれども、なかなか提案ができないという事務局の思いもわかるのですけれども、先を見据えると5年、6年かかるのであれば今すぐとにかく取り掛からないとどうにもならない。だから、統合先がどうであれいずれにせよ統合に向けてこういうふうにしていくかどうか、こういう案があるというのを早急に作っていただきたいのがまず1つです。

それから、先程内田委員がおっしゃっていたように、今後の久喜市の統合に向けては、中学校区を基本に、学校現場では小中一貫教育ということで中学校によっては小学校に来てとかいろいろな交流だとか、コミュニティスクールも各中学校区であるように中学校区でまとまりがある。そこでいろいろな意見を交わしたり、今後も学校の統合の見通しについてそういう場でも話し合いをしていただくと、こういった審議会の案というのが出されてくるのではないかなという気がします。あと、やはり修繕で予算を相当かけるし、また、新校を作るにしてもお金がかかるというところの学校でも維持とか修繕とかでかかるお金を5校分持つのか、1校で済むのかというあたりを将来的なことを見据えて考えていく必要があるのかなと思いますので、中学校区を中心に今後の統合等の見通しを持っていただけるとありがたいのかなと思います。

議長

(山本会長)

事務局の大変な思いもわかるけれども、先を考えたときに案を早急に作っていただきたいというご要望でした。そして、修繕等の予算も含めて考えると将来的なことを見据えて中学校区を基本として考えるということも良いのではないかというご意見をいただきました。

鈴木委員、いかがでしょうか。

鈴木委員

今回のメンバーで最後ということなので、本町小学校と久喜北小学校の現在の状況と菖蒲以外でこの学区等審議会に議題として挙がりそうな案件があるのかどうかをご質問させていただきます。

事務局

(齋藤係長)

こちらの審議会でも久喜北小学校と本町小学校の学校統廃合の方向性ということでご審議いただいて、新校の位置を本町小学校が適切なのではないかとご答申をいただいております。今後、教育委員会のほうで、今本町小学校の校舎がある中で建替えるのが良いのか、同じ位置に建て替えるよりも新校舎を建てるほうが良いのか、そういった費用比較だとかを進めていながら改修が終わる年度に久喜北小学校と統合するののかというのを保護者に問うというような流れになると思いますので、今この時点だとその費用比較等々が終わってなくて、ちょうどいま外壁の工事等をやったりした直後ということもあって、その段階には至って

いないので本町小学校と久喜北小学校の統合に関する議論というところに関して言えばまだ進んでいないという段階です。

他の地区の統合となると、あまり対象とする菖蒲地区の関係学校がありますが、他の地区で言いますと、久喜地区ですと本町小学校以外だと青葉小学校の児童数が減ってはいますがということですし、清久小学校も減ってはいるのですが相手となると江面小学校あたりになるところもあつたりしますし、鷺宮地区は、鷺宮西中学校区は現在義務教育学校に向けて進めていて、砂原小学校だとか東鷺宮小学校、桜田小学校のほうは子どもの数がおりますし、栗橋地区はマンション開発だとかイオンの周りの住宅開発が進んでいる関係もありましてあまり人も減っていない、適正規模・適正配置が保たれている状況ですので、直近は久喜地区の本町小学校、久喜北小学校と菖蒲地区なのかなと考えております。

議長

(山本会長)

委員の皆さん、たくさんのご意見をありがとうございます。

小林小学校の関係につきましては、本審議会に諮問された平成29年当時と現在では児童数の見込みが大きく変化しており、事務局では当初2校での統合を想定していたようですが、それでは適正規模を満たさない状況になっている。

そうした中、規模を広げた統合を検討する場合の新校の位置や通学方法について、市内部での調整が整っていないため、具体的な説明会を開催できる段階にないとのことでした。ただいま、委員の皆さんから様々なご意見をいただいて、統合する際にどういうことを大事にしていかなければならないのかということ、ご意見をいただきましたので、これらをどう調整し、ご理解を得ていくのかが、今後の課題となるようです。

こういった内容でよろしいでしょうか。

<異議なしの声あり>

議長

(山本会長)

ありがとうございます。

それでは、事務局ではこうした現状を次の委員にもよく引き継いでいただくよう準備をお願いします。

その他、ご意見等はございますか。

<なしの声あり>

議長

(山本会長)

ないようでしたら、以上で本日の議事を終了し、議長の任を解かせていただきます。ご協力ありがとうございました。

4 その他

司会

(志村主幹)

次に、その他でございます。事務局から事務連絡を申し上げます。

先ほども、次の任期の方への議事の引継ぎの大切さというのが話題になりましたけれども、現在の委員の皆様におかれましては、今回が任期内で最後の会議となります。

これまで、大変お忙しい中、久喜市立小・中学校学区等審議会にご参加いただき、「学校統廃合等の検討」という難しいテーマに対しまして、貴重なご意見を賜りましたことに、改めて深く感謝を申し上げます。ありがとうございました。

事務局からの連絡事項は以上でございます。

